

運氣

の下がる家、
上がる家

はじめに

はじめまして、株式会社岡地建工社、代表取締役の岡地俊明と申します。本冊子をお手に取っていただき嬉しく思います。タイトルにある「運氣の下がる家、上がる家」とは私が実体験を通してきて発見したことになります。本冊子を通して少しでもあなたの参考になれば幸いです。

本編に入る前に軽く私の自己紹介をさせていただきます。私は横浜市神奈川区松見町という所でリフォームやリノベーション工事などを行っている株式会社岡地建工社という会社を経営しています。創業は昭和三十四年と昔からある会社で、私は三代目の経営者になります。リフォーム会社としては珍しく、地域の方々と一緒に会社や神社でマルシェを行ったり、弊社オリジナルの金運が上がるかもしれない「トイレガチャガチャ」を販売したり、事あるごとにイベントをしたりしています。その背景にあるのは、どんな形でもいいから人に喜んでもらいたいという想いがあります。私が小さい頃も近所で、大人が無料でスーパースクールなどを提供してくれていました。今の子供たちが大きくなって「そういえば、近所に変な会社があったね」と会話をしてくれたら嬉しいです。

この冊子を書こうと思いついたのも、少しでもお近くにお住まいの方に

お役に立てたらという想いがあるからです。また、自分が体験したからこそ伝えられる事があると思っています。

私は二十年前ぐらいに、事故物件をリフォームするという体験をしました。数件ではありません、その数、百件を超えていました。どんな物件かと軽く紹介をすると、自殺、他殺、孤独死などがあつた現場になります。本冊子ではその中で見つけた家の共通点をお伝えしたいと思います。つまり、その共通項の逆をやれば運氣の上がる家が簡単に作れるというわけです。途中で生々しい表現があるかもしれませんが、苦手な方は運氣の下がる家、上がる家のタイトルからお読みください。

それから後半では「冬場に多い浴室での事故」のこと、ニュースで多く取り上げられる「悪質な訪問販売」のことについて触れたいと思います。それでは、長くなつてしまいましたが本編に入りたいと思います。しばらくお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

仏さまとのご対面

今でも忘れられません。今から十五年ほど前のことです。マンション管理会社の方から「安否確認」をしてほしいと連絡がありました。安否確認とは簡単にいうと、お部屋の中で住人が亡くなっていないかを確認することです。たまたま私は、そのマンションから五分ほどの場所にいましたので、すぐに駆け付けました。どうやら、そのお部屋には年配の女性の方が一人暮らしをしていて、ご近所さんが最近見かけないから心配で管理会社に連絡をしたようでした。

到着すると、お部屋の前には管理会社の人、隣の方、警察、鑑識と大勢の方がいました。着くなりお巡りさんが私にこう言いました。

「隣のお部屋のバルコニーから侵入して、窓を割って入り、玄関の鍵を開けてください」

心の中で「ええ、なんで？」と思いました。窓ガラスを割るぐらいのことだと思っていたからです。しかし、お巡りさんの年齢的にもバルコニーを越えるのは厳しそうだと思ったので「わかりました」と返事をしました。

ちなみに安否確認をする方法は一般的には玄関の鍵を壊したり、ドアスコープから鍵を開けたり、ピッキングをする方法になります。

ここで気を付けていただきたいのが、昔ながらディスクシリンダーというタイプはピッキングで一分も経たずに開けられるので交換を強くお勧めいたします。「ディスクシリンダー」とウェブ検索をすれば出てきますので心配な方は確認してみてください。

話は戻ります。バルコニーからバルコニーへ移動しました。窓は二つあったのですが、両方ともカーテンが閉まっっていて中の状況は外からは確認出来ません。まず、私が考えたのは玄関との最短ルートを想像してどちらの窓を割るかを決めました。クレセント（窓の鍵）付近にテープを張りマインスドライバーとハンマーで窓を叩き割りました。慎重に鍵を開けました。心臓はバクバクでした。このまま開けたら目の前に亡くなっている人がいるかもしれない。

右を開けるか、左を開けるか。

もしかしたら、これだけでも今から起こる出来事が変わるかもしれない、そう思うと余計に心臓がバクバクしました。時間をかけても状況は変わらないので、覚悟を決めて左側をそろりと開けました。そして、カーテンを静かに開けました。すると、電気がつけっぱなしになっていて、しんとしています。すぐに「亡くなっている」と思いました。なぜか、ダイニングに布団が敷いてあります。そこに人は見当たりません。

玄関へダッシュしようと、中に足を踏み入れた瞬間に右側に見えました、壁にもたれかかって亡くなっている高齢の女性が……。片手を伸ばしている状態で硬直していました。きっと苦しくて外に出ようとしたのでしょう。仮に私が右側を開けていたら、はつきりとご対面していたことでしょう。

心臓がバクバクしたまま玄関へ急ぎました。ドアを開け警察の方に冷静を装い「亡くなっています」と伝えました。もちろん、警察の方はそっけなかったですが……

今、お話したのが一番印象に残っているエピソードになります。他にはこのような物件がありましたので軽くお伝えします。

旦那さんが先に奥さんのことを首を絞めて殺害し、その後に浴室で首を吊った現場。母子家庭で、母親が彼氏に薬づけにされ宅内死亡、中学生の息子が発見。

年配の方が孤独死した現場は数えきれないほどありました。

運氣の下がる家、上がる家

さて、ここからが事故物件に共通していたことになります。今からお話をすることに該当する方は少しづつでも構いませんので改善されることをお勧めいたします。

共通項① とにかく物が多い

あからさまに壊れている物や日用品、洋服が多い。

改善策 とにかく捨てる。一日にコンビニ袋一袋分と決めてはじめてみる。

共通項② 掃除をしていない

とにかく事故物件は汚いです。ホコリが被っていたり、ゴミがその辺に散らかっていたり、キッチンは油だらけ、食器も洗わずにそのまま。トイレも必ず汚れています。浴室はカビが生えているか、石鹸カスで真っ白になっている。各部屋の床も何故かべたべたです。

改善策

掃除する。一日に「ここだけ」と決めては始める。その時のコツとして中途半端なところで止めるということです。え？と思われるかもしれませんが。人は何かを始めると完了させたくなるものです。中途半端にすることによって、翌日にもやろうという気持ちが自動的に起こります。

共通項③ 紙類が多い

これは引っ越してきたままの段ボールや書類のことです。事故物件には雑誌はあっても書籍はまず置いてありません。

改善策

古紙回収の日に捨てる。捨てるのが不安な場合はスマホで写真を撮っておく。

共通項④ 部屋が暗い

どの部屋もカーテンが閉めっぱなしでした。しかも、遮光カーテン率が高めでした。※遮光カーテンが悪いわけではありません。

改善策

日中はカーテンを開ける。玄関が暗い場合は日中でも電気を付けっぱなしにしておく。壁紙や家具などを白っぽい明るい色に変える。

共通項⑤

バルコニーまで物が溢れている、汚い。

こういった家は泥棒に狙われやすいので気を付けてください。

改善策

物を置かない

共通項⑥

湿気が多い

とにかくどの物件もじめつとしています。空気がよどんでいます。

改善策

換気をする

まとめ

物を捨てて、掃除して、換気して、部屋を明るくする

運氣の上がる家にするのには、たったのこれだけです。しかし、これが難しかったりします。中には片付けや掃除が苦手な方もいらっしゃるかと思います。そういった方は、そんな自分を責めないでください。誰にでも得意不得意があります。そんな時は友人や家族に手伝ってもらったりしてください。あるいは私たちみたいな業者にお金を支払って頼ってみてください。ただし、ここで注意してほしいのはお金を払ったのだから、その後はきれいに保つんだと決意してください。覚悟代なんだと腹を括ってみることです。

いきなり完璧を目指そうとしても苦しくなります。特に完璧主義の方は完璧に出来ないからと最初から諦めてしまう人が多いです。それよりも、今よりもちょっと綺麗にするという完了主義を目指してトライしてみてください。

おまけ①

家に潜む危険

寒い時期になると、しっかりと対策をした方がいいことがあります。それは入浴時のヒートショック対策です。家の中で一番多い事故がヒートショックによる溺死です。その数は交通事故で亡くなる方の五倍です。本当に他人ごとではありません。後にすぐに出来るヒートショック対策があるので、今日から試してみてください。

なぜ、このことを伝えたかったかというと私の知人が過去に三人お風呂で亡くなったからです。それはあまりに突然起きたので、とてもショックな出来事でした。その中でも一人は飲酒しての入浴だったそうです。なので、お酒を飲んでからのお風呂も絶対に止めてほしいです。年齢はまったく関係ありません。少しでも多くの人の命を寒い時期のお風呂から守りたい、そんな想いがあります。

安らぎの場であるご自宅に命の危険性があるなんて本末転倒です。特に戸建のお風呂や昔のお風呂はキンキンに冷えますから、要注意です。

それではヒートショック対策です！

① 暖房機器を活用し、家全体の温度差を小さくする

② 入浴時の注意

- ・ 脱衣所やお風呂を事前に温める
 - ・ お湯を四十一℃以下に設定して、急激に体を温めない
 - ・ 心臓に負担をかけないように、手足にお湯をかけて体を慣らす
- 心疾患のお持ちの方や高血圧の方は特に注意してください！

おまけ②

詐欺に気を付けてください

建設業界は世間からのイメージが昔から悪いです。それは、実際に悪いことをしている業者がいるからです。最近でも、詐欺で逮捕されている業者がネットニュースに載っていることが多いです。そのほとんどが「訪問販売」です。「屋根がはがれている・・・」などと言って、訪問してきます。訪問販売はほぼ詐欺です。なぜなら、まともな業者は紹介やリピートだけで仕事が回ります。実際に、私の知り合いも何人か訪問販売にやられました。その話を聞いたたびに心が痛くなります。

せめて、同じ地域の人達が被害に合わないようと思っています。当社に

も時々「屋根が壊れていると業者が訪ねてきた」と連絡をしてくる方もいらっしゃると思います。

それから、万が一、訪問販売の営業が来たら、今からお伝えする方法で断ってください。

「息子がリフォーム会社に勤めているから」

「夫がリフォーム会社に勤めているから」

このワードを覚えていて咄嗟に出るようになってもらえたらと思います。

さて、簡易的ではありますが以上が私の伝えたかったことになります。

その他にもお家のことで悩みがある方はご遠慮なさらずに、0120-421-254までお気軽にご連絡ください。ご相談やお見積もりやローン審査も無料で承っています。もちろん、その後に検討して工事はやらなくても大丈夫です。こちらからの押し売りは絶対にしません。なぜなら、私も会社の代表なので、会社に営業電話がたくさんかかってくるからです。しかも、悪質な電話も沢山あります。

例えば「社長とこないだ話した件でご連絡しました。代わってもらえます

か？」など。

当然知らない人です。そうやって平気で嘘までついて営業電話をしてきます。

これは綺麗ごとと思われてしまうかもしれませんが、会社というのは社会のお役に立つためにあると私は思っています。世の中、どこかが間違っている。ですから、せめて自社だけは同じことをしない。そう決めているからこそ、押し売りは絶対にしないと約束ができます。

私たちがマルシェやイベントなどを行っている理由は、友人に気楽に相談するみたいに気楽に何でも話せる、そういった関係性をみなさまと持ちたいと思っていますからです。そして、お近くにいますのですから、一緒に楽しみましょう。色々アドバイスもください。私たちに出来ることは何でもしていきたいです。

最後までお読みくださりありがとうございました。

あなたの人生がより爆上がりすることを確信しています。